

株主のみなさまへ

第70期 中間報告書

2024年4月1日～2024年9月30日

医療界に信頼され
選ばれる企業をめざす



株式会社ビー・エム・エル

証券コード：4694



医療界に信頼され 選ばれる企業をめざす

- P1 財務ハイライト
- P2 株主のみなさまへ
- P3 営業の概況
- P5 連結決算の概要
- P7 特集
- P13 株式の状況
- P14 会社概要



平素は、格別のご高配を賜り、
厚く御礼申し上げます。
ここに、第70期中間報告書
(2024年4月1日～
2024年9月30日)を
お届けするにあたり、
ご挨拶申し上げます。

財務ハイライト

売上高 (百万円)

■ 通期 ■ 中間期



営業利益 (百万円)

■ 通期 ■ 中間期



親会社株主に帰属する中間(当期)純利益 (百万円)

■ 通期 ■ 中間期



当中間連結会計期間における我が国経済は、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって緩やかな回復傾向が続きました。しかしながら、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっています。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要があります。

このような経済環境のもと受託臨床検査業界におきましては、2024年度は2年毎に実施されている診療報酬改定の年度にあたり、診療報酬(検体検査)の引き下げに加えて、人件費等の上昇や業者間競争が続いていることから事業環境としては引き続き厳しい状況にあります。

こうした中で、当中間連結会計期間の業績は、売上高71,373百万円(前年同期比1.8%増)、営業利益5,170百万円(前年同期比0.9%増)、経常利益5,359百万円(前年同期比1.6%増)、親会社株主に帰属する中間純利益3,426百万円(前年同期比2.1%増)となりました。当社グループの売上

高につきましては、新型コロナウイルス関連検査の受託数は減少したものの、新型コロナウイルス関連検査以外の受託数が堅調に推移したことにより増収となりました。また、利益につきましては、増収に加えて収益性向上に関する各種取り組みの効果もあり増益となりました。

2024年度は、第9次中期経営計画(2024年度～2028年度)の初年度にあたります。

本中計においても引き続き人々の健康に資することを事業の目的として医療界に信頼され選ばれる企業をめざすとともに、「10年先を見据えた事業拡大を確固たるものにする」ための期間として、事業の成長を維持しつつ集中投資による事業基盤の大幅な拡充を進めてまいります。

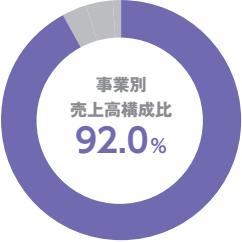
株主のみなさまには、一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 **近藤 健介**

営業の概況



臨床検査事業



事業別
売上高構成比
92.0%

事業内容

- **臨床検査**
- **治験検査**

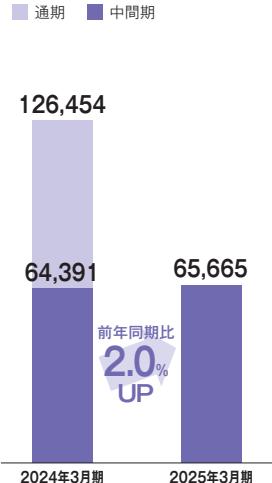
ルーチンから特殊検査まで4,000項目を超える検査を実施しています。

業績
連結
売上高

65,665

百万円

新規獲得の強化を図るとともに、既存ユーザーに対する新規検査項目・独自検査項目・重点検査項目拡販等の深耕営業を実施することで業績の拡大を図りました。この結果、臨床検査事業の売上高は前年同期比2.0%の増収となりました。

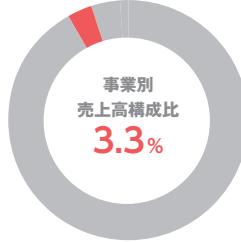


期間	売上高 (百万円)
2024年3月期	126,454
2025年3月期	65,665

前年同期比 **2.0% UP**



食品衛生事業



事業別
売上高構成比
3.3%

事業内容

- **食品コンサルティング**
- **食品・環境検査**
- **腸内細菌検査**

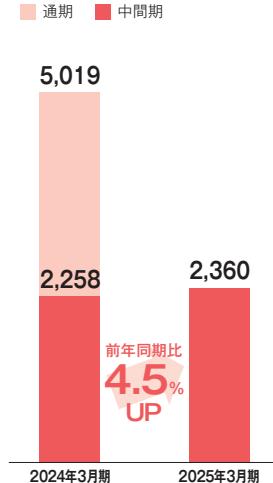
食環境の総合的な衛生管理、消費者の健康と食の安全を支援しています。

業績
連結
売上高

2,360

百万円

食品コンサルティングで店舗点検の受注が増加したことや、腸内細菌検査の受託数が堅調に推移したことで、売上高は前年同期比4.5%の増収となりました。

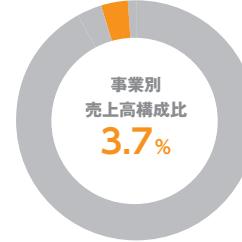


期間	売上高 (百万円)
2024年3月期	5,019
2025年3月期	2,360

前年同期比 **4.5% UP**



医療情報システム事業



事業別
売上高構成比
3.7%

事業内容

- **電子カルテシステム**
- 開発・販売
- 保守サービス

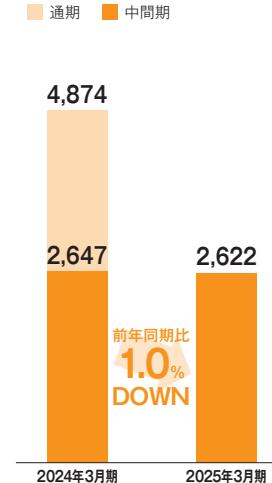
診療所版電子カルテシステム「Qualis Cloud」、 「Qualis」及び「Medical Station」の販売・保守を行っています。

業績
連結
売上高

2,622

百万円

Qualis Cloud販売の一時停止により、新規販売が低調であったことや、オンライン資格確認等システムの需要が一巡したことに伴い導入が減少したことで前年同期比1.0%の減収となりました。



期間	売上高 (百万円)
2024年3月期	4,874
2025年3月期	2,622

前年同期比 **1.0% DOWN**



その他事業



事業別
売上高構成比
1.0%

事業内容

- **調剤薬局**
- **SMO**

調剤薬局事業と高精度検査で医薬品開発をサポートしています。

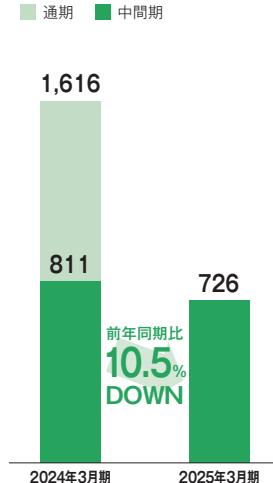
※ SMO: 特定の医療機関（治験実施施設）と契約し、その施設に限定して治験業務を支援する機関。

業績
連結
売上高

726

百万円

治験実施医療機関支援(SMO)業務で大型案件への対応が終了したことに加えて、調剤薬局事業で診療報酬(薬価)引き下げの影響の他、新型コロナウイルス治療薬の処方箋枚数や発熱外来の患者数が減少しました。これらにより、前年同期比10.5%の減収となりました。

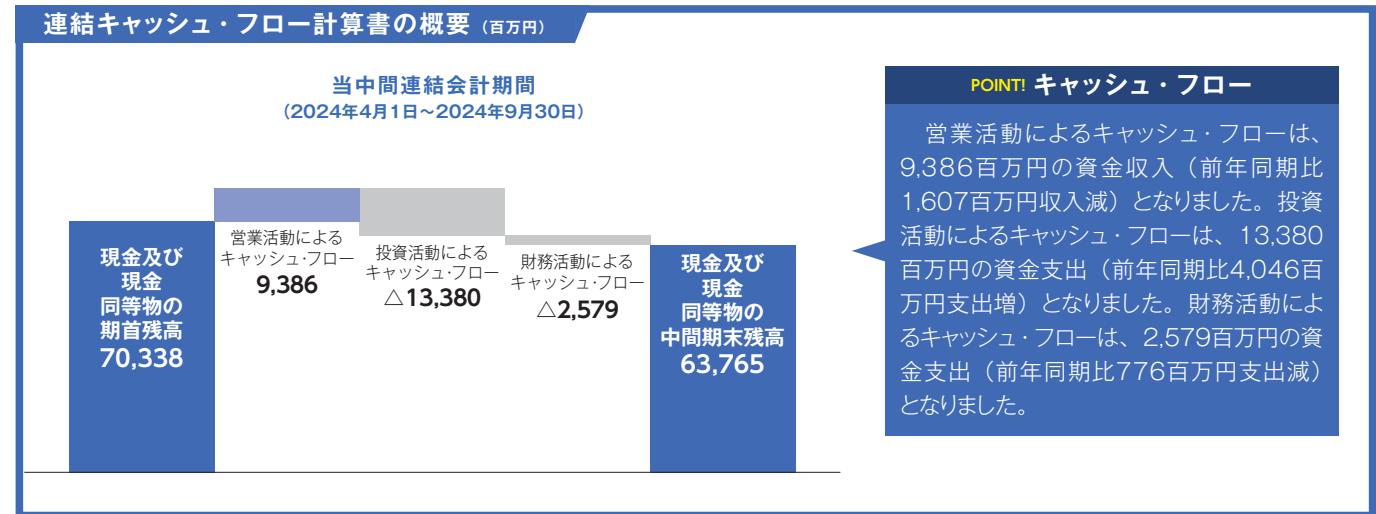
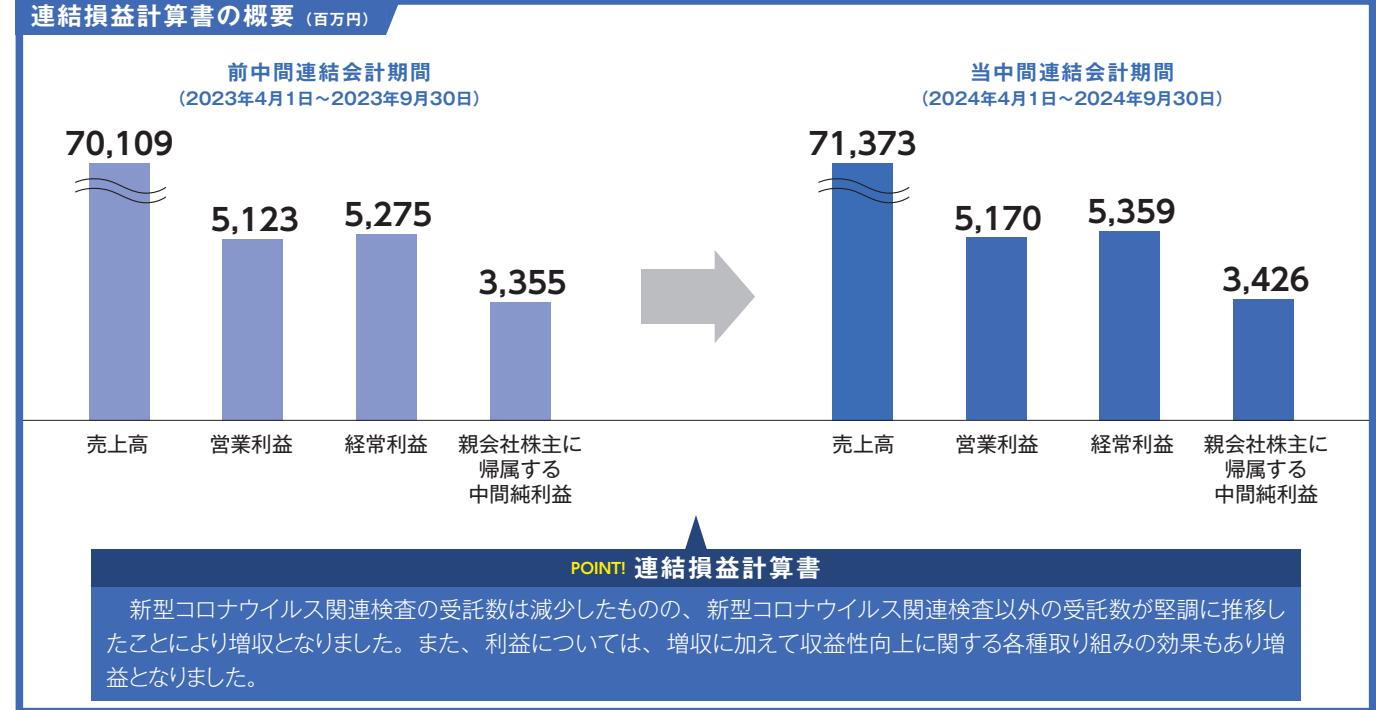
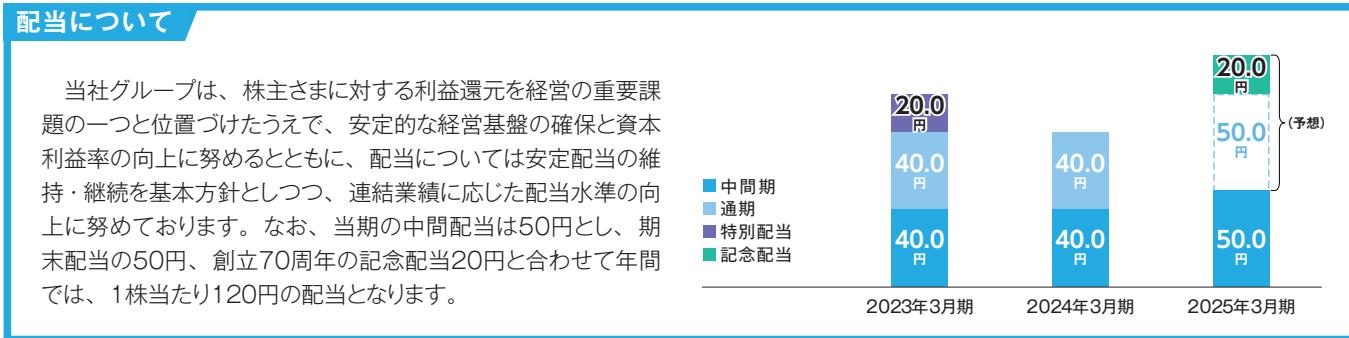
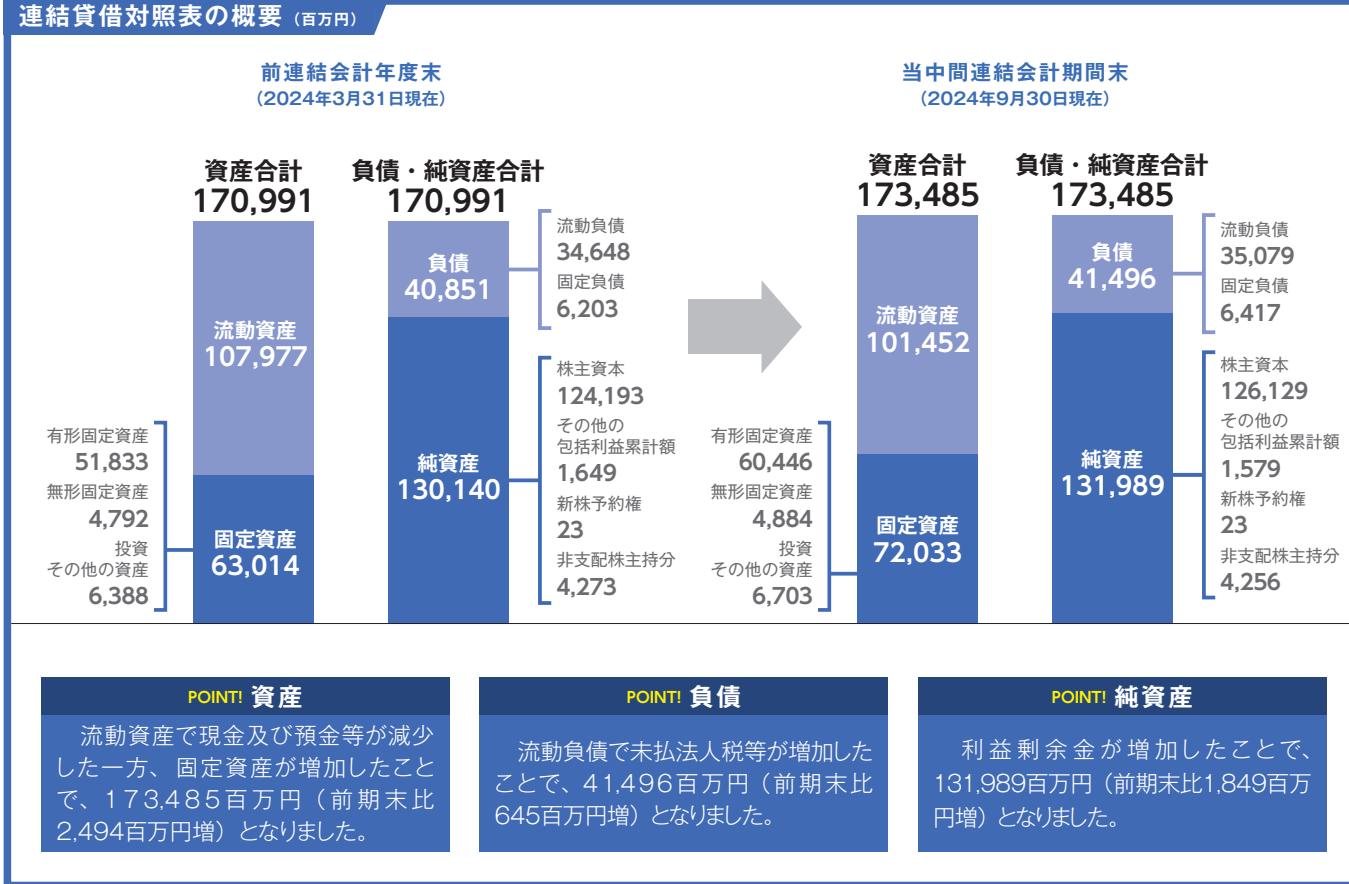


期間	売上高 (百万円)
2024年3月期	1,616
2025年3月期	726

前年同期比 **10.5% DOWN**

3

4



BMLグループの新棟竣工について

新棟完成図（埼玉県川越市）

BMLグループでは「10年後も持続的な成長が可能な基盤の構築」をコンセプトとして、BML総合研究所6期棟をはじめ Labcorp棟、病理学的検査のPCLジャパン新東京ラボ、食品衛生事業のBMLフード・サイエンス新検査棟を建設（稼働）しました。

これにより、検査能力を2023年度比125~200%に拡張します。また、BML総合研究所6期棟では、年間10億円のコスト削減効果を見込んでいます。



BMLグループの新棟竣工について

新棟の概要

新棟の竣工及び稼働時期や建設場所等についてご紹介します。



BML総合研究所 既存棟

Labcorp棟

竣工：2024年8月
稼働予定：2025年1月
場所：埼玉県川越市



PCLジャパン 新東京ラボ (病理学的検査)

竣工予定：2024年11月
稼働予定：2025年1月
検査能力：166~200%
場所：東京都新宿区



BML総合研究所 6期棟

竣工：2024年8月
稼働予定：2025年1月
検査能力：140~150%
場所：埼玉県川越市



BMLフード・サイエンス 新検査棟 (食品衛生事業)

稼働：2024年5月
検査能力：125%
場所：埼玉県川越市



検査能力の拡張

検査能力を2023年度比125~200%に拡張します。

BML総合研究所		PCLジャパン (病理学的検査)		BMLフード・サイエンス (食品衛生)	
2023年度		2023年度		2023年度	
ルーチン検査	26,807千検体/年	病理検査	125千検体/年	腸内細菌検査 等	6,609千検体/年
微生物検査	2,720千検体/年	細胞診検査	481千検体/年		
ゲノム検査	1,050千検体/年				
▼		▼		▼	
2028年度		2028年度		2028年度	
40,000千検体/年	150%	250千検体/年	200%	8,280千検体/年	125%
3,800千検体/年	140%	800千検体/年	166%		
1,600千検体/年	150%				

コスト削減の効果

総合研究所6期棟の全検査工程で合計10億円の削減効果を見込んでいます。



Concept

「サステナビリティ」10年後も持続的な成長が可能な基盤の構築

環境

環境負荷低減への配慮

太陽光発電装置の設置

新棟南壁面全面に発電パネルを設置し、自然エネルギーを活用

空調設備の高効率化

高効率熱源機器によるエネルギー効率向上



〔年間〕
CO₂削減量
478t-CO₂/年

再生可能エネルギーの活用

電力をより多く使用しているBML総合研究所では、再生可能エネルギーの活用を積極的に行っています。

BML総合研究所新棟の南側壁面には太陽光パネルを設置し、再生可能エネルギーを活用しています。太陽光パネルによる年間推定発電量は291,000kwh、CO₂削減量は約123t-CO₂を見込んでいます。

また、BML総合研究所の電力の一部は再生可能エネルギー由来の電力を活用し、CO₂排出削減に貢献しています。



太陽光パネル

BCP

激甚化する災害への対応

浸水対策

BML総合研究所全体の検査機能を2F以上に再配置

震災対策

新棟は免震構造による建築
既存棟は耐震構造 + 検査機器への免震装置

被災時対策

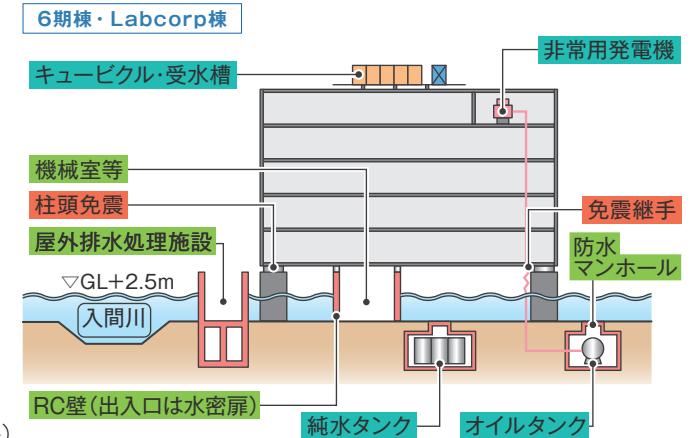
電力・水道供給のバックアップ
→非常用発電設備（新棟72時間の電力供給）
→上水、純水タンク（BML総合研究所全体の2日~3日の供給量確保）

浸水対策

BML総合研究所1階に設置されている検査機器等について、新棟建設後は2階以上のフロアに設置（再配置）する計画ですが、それまでの備えとして2023年12月に浸水対策工事が完了しました。これにより現在のBML総合研究所はグラウンドレ



止水ドア

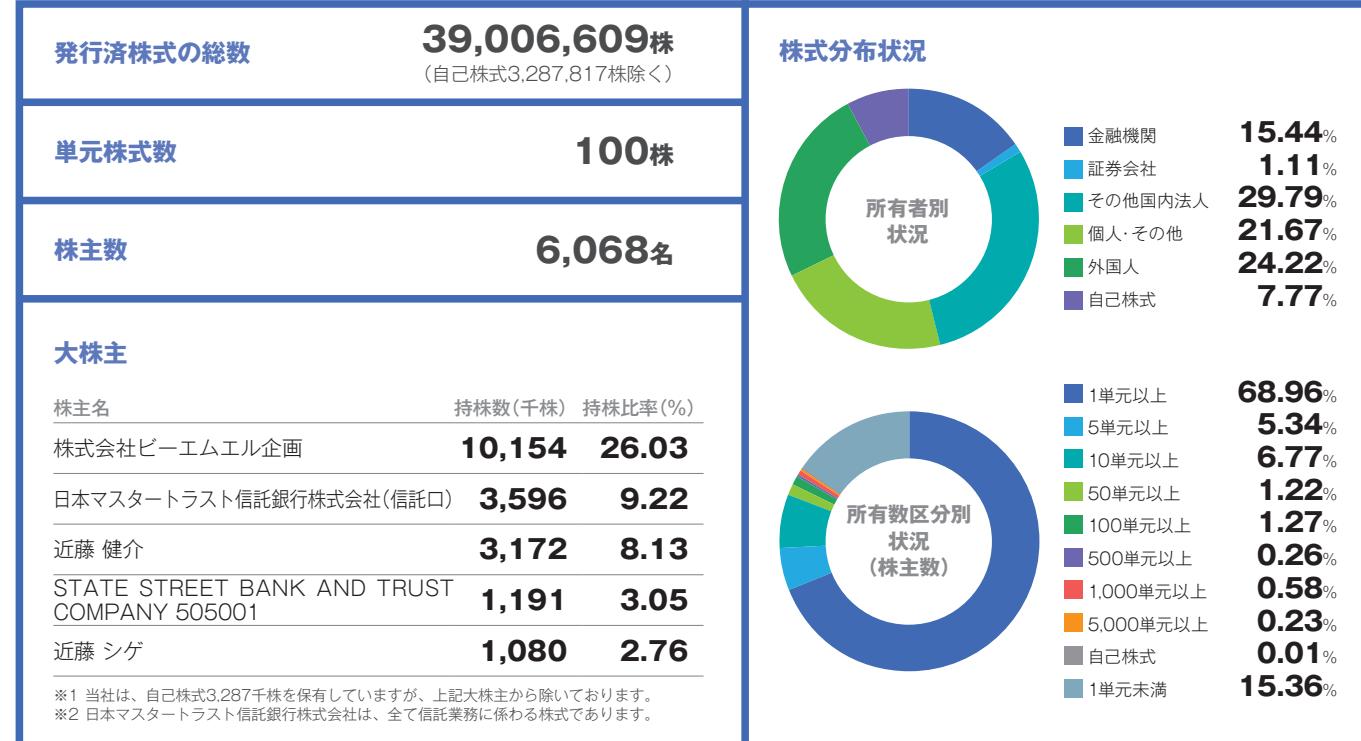


ベル1メートルまでの浸水に耐えられる体制が整いました。さらに、地下からの湧き水対策として地下ピット内に排水ポンプを設置することで万全な体制が整備されました。

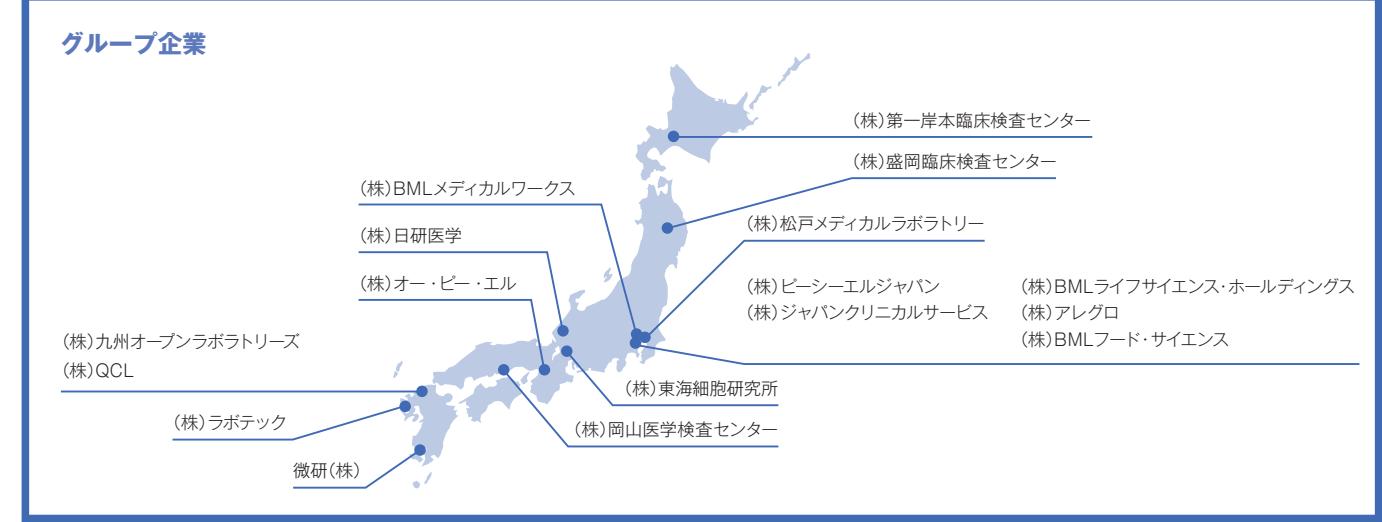
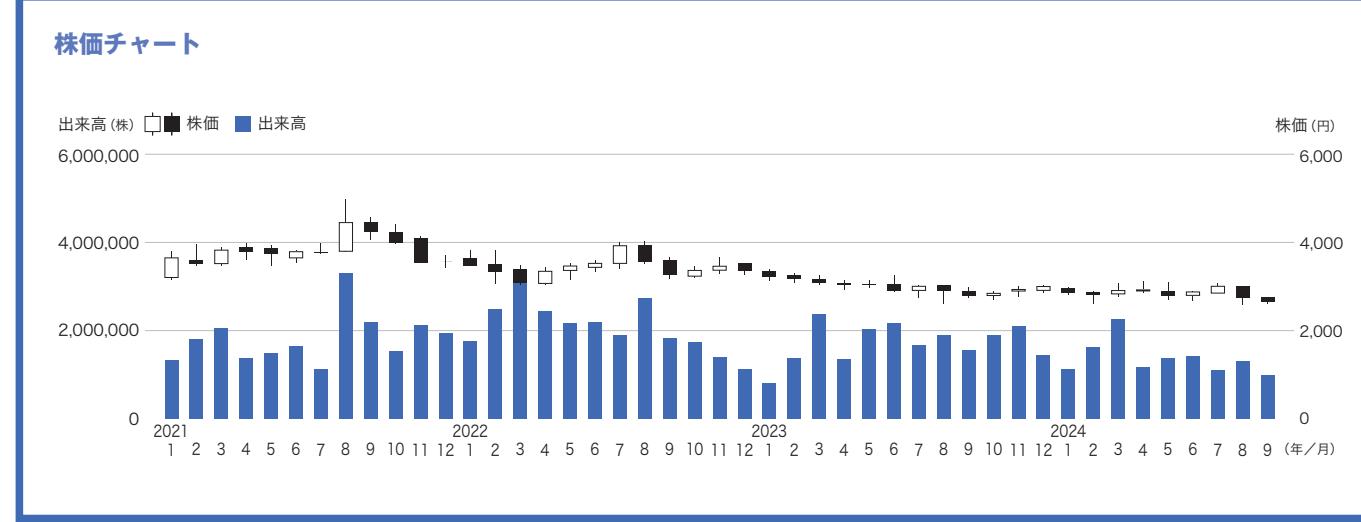
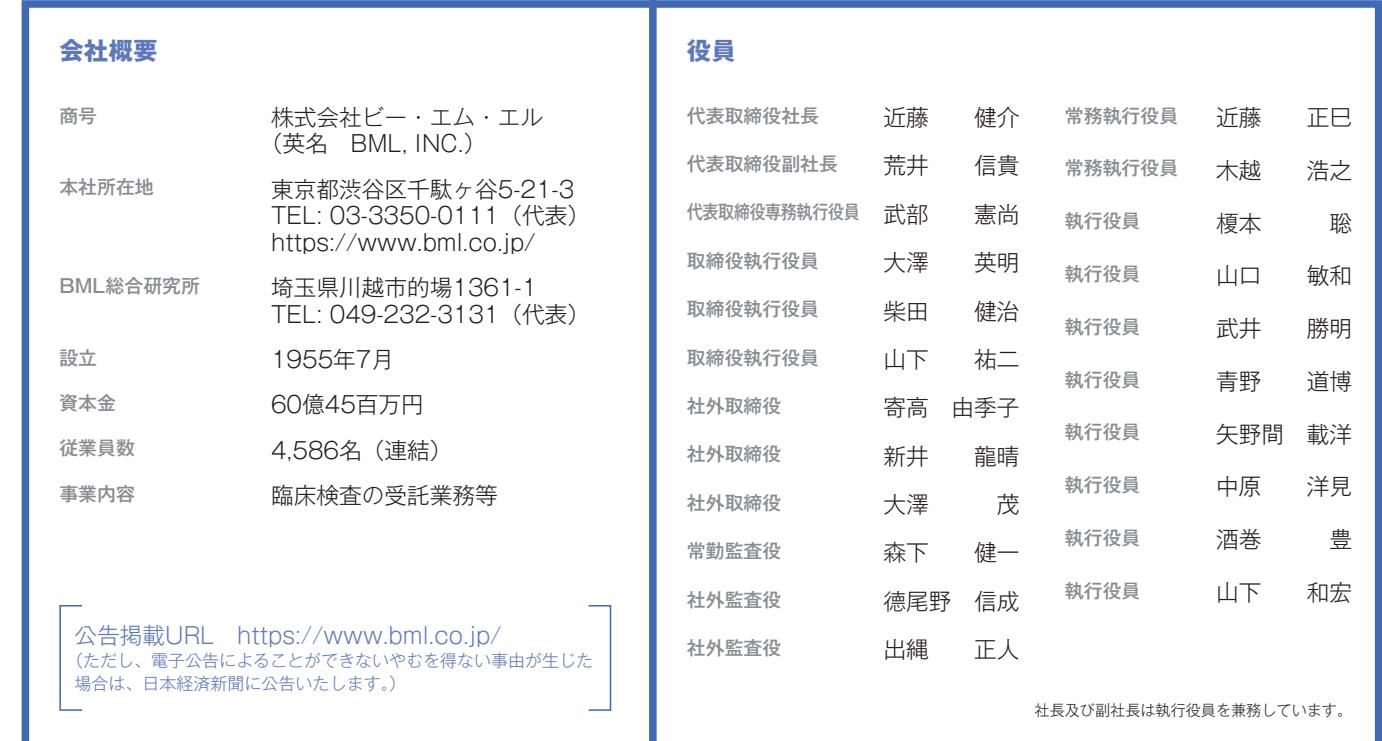


止水板付シャッター

株式の状況 (2024年9月30日現在)



会社概要 (2024年9月30日現在)



細胞生物課

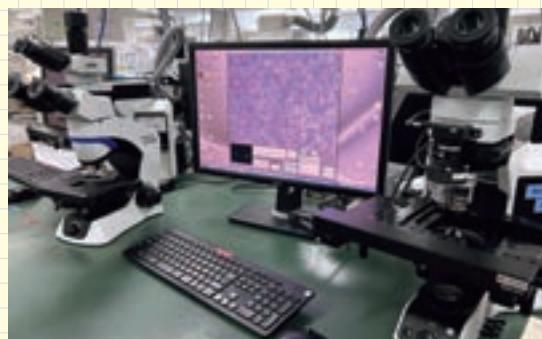
当検査室では、主に細胞を取り扱う検査項目を担当しており、無菌培養技術を用いて、血液から分離した単核球分画に含まれる細胞の活性や機能により生じた現象を評価しています。各検査工程は自動機を利用するのが難しい部分が多いため、主に用手法で実施していますが、ヒューマンエラーの低減やトレーサビリティ強化のため、自動機の導入を進め、精度向上に取り組んでいます。



▲T-SPOT単核球分離装置



▲T-SPOT解析装置



▲CMV検査における染色スライド標本の解析

こんな検査をやっています!!

- **薬剤リンパ球刺激試験**
(薬剤によるアレルギー反応を疑った時に原因薬を特定する検査)
- **T-SPOT検査**
(結核の感染の有無を調べる検査)
- **サイトメガロウイルス(CMV)抗原検査**
(活動的なCMV感染の有無を調べる検査)

株主メモ

決算期 3月31日
 定時株主総会 6月
 基準日 定時株主総会権利行使株主確定 3月31日
 株主配当金受領株主確定 3月31日
 中間配当金受領株主確定 9月30日

株主名簿管理人 日本証券代行株式会社
 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号
 (〒103-8202)
 株式会社お手続き用紙のご請求をインターネットでもお受け付けいたしております。
 URL <https://www.jsa-hp.co.jp/name/index.html>

各種手続のお申出先

未払配当金のお支払い

株主名簿管理人*

住所変更、単元未満株式の買取・買増、配当金受取方法の指定等

〈証券会社をご利用の場合〉

お取引のある証券会社

〈証券会社をご利用でない場合〉

特別口座の口座管理機関である
 日本証券代行株式会社*

* 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の全国本支店でも行っております。

(電話お問合せ・郵便物送付先)

日本証券代行株式会社
 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (〒168-8620)
 0120-707-843 (フリーダイヤル)